



飛翔

2025年1月10日(金)
第1学年 便り
第 33 号
江戸川区立東葛西中学校

3学期が始まりました

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。13日間の冬休み、皆さんはどのように過ごしましたか。休業中の生活記録には「部活が忙しかった」「家でんびりと過ごした」「率先して家のお手伝いをした」など、充実した日々を送っていた様子が伝わってきました。

終業式の日に校長先生がおっしゃっていた、「1日は86400秒」「米びつに米粒をためる」という2つの話を覚えているでしょうか。「1日は86400秒」というのは、全員に平等に与えられた時間をどのように使うかということです。「米びつに米粒をためる」というのは、小さな努力の積み重ねが大きな成果を生むということです。皆さんは、この13日間という平等に与えられた時間の中で、どれだけのことを積み重ねることができたでしょうか。冬休みを振り返り、3学期につなげていきましょう。

冬休みの学習について

冬休みには、各教科から宿題が出されました。すべて提出することはできたでしょうか。余裕をもって終わらせた人がいる一方で、宿題を学校に置き忘れたり失くしたりした人もいて、宿題に対する意識の差を感じました。限られた時間の中で宿題に取り組むためには、「**計画性**」が大切です。宿題の中には、11月中から出されていたものもあります。計画性を持ち、前もって取り組むことができれば、焦って終わらせることをもなくなるでしょう。もし、まだ提出できていない宿題がある人は、すぐに提出しましょう。また、始業式には国語・数学・英語でテストがありました。このテストはどれも、冬休みの宿題から出題されています。宿題を「終わらせるための作業」としてではなく、「学習」として取り組む意識を持ちましょう。

3学期の過ごし方

3学期に入り、1年生として過ごす期間も残すところ3か月となりました。3学期には、百人一首大会やピブリオバトル、合唱コンクールなど、多くの行事があります。行事の成功には、クラスの団結が不可欠です。個人の成長がクラスの成長につながり、クラスの成長が学年の成長につながります。成長のために必要なことは、思いやりのある「**言葉**」と周りのための「**行動**」の積み重ねです。言葉には、優しいフィルターをかけることを心がけましょう。そして、毎日クラスのために行動してみましょう。日直の黒板掃除を手伝う、プリントを配るのを手伝うなど、一人ひとりが「**一日一善**」を積み重ねていきましょう。その意識が個人を、クラスを、学年をより成長させてくれます。1年生223人全員で、2年生につながる3学期にしましょう。期待しています。

学年通信の題字「飛翔」に決定！

今週号から学年通信の題字が変わっていることに、皆さんは気づきましたか。昨年の12月に、学級委員の皆さんに学年通信の題字を考えてもらいました。出してもらった案を先生たちで話し合った結果、題字は「飛翔」に決まりました。この「飛翔」という題字には「2年生(次のステップ)に飛び立つ」という強い思いが込められています。素晴らしい題字を考えてくれた学級委員の皆さん、ありがとうございました！

百人一首大会に向けて

12月から始まった百人一首の学習。国語の授業では和歌について学び、毎時間小テストと競技をしました。始業式には100問テストを実施し、冬休みの学習の成果を発揮できた人も多くいたと思います。廊下には皆さんが作ったかるたが掲示され、休み時間には一首でも多く覚えようと熱心に学習に励む姿が見られ、熱意の高まりを感じます。百人一首大会当日は、授業でこれまで使っていた5色かるたではなく、競技用のかるたを使用します。クラス対抗で畳に向き合い、真剣勝負です。優勝を目指して頑張りましょう。ここで、先生方のお気に入りの歌を選んでいただき、裏面に掲載しました。皆さんもぜひ覚えましょう！



先生方のお気に入りの歌



- 「田子の浦に うち出でてみれば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ」 (山部赤人)
 - ・ 遮ったものがなくなり、一気に視界が開けた瞬間をとらえた歌です。赤人が見たであろう美しい富士山の風景を頭にイメージすることが出来ます。歌を通して当時の情景に思いをはせることが出来るため、私はこの歌がお気に入りです。
- 「ちはやぶる神代も聞かず 竜田川 からくれなみに水くくるとは」 (在原業平)
 - ・ 不思議なことが当たり前起きた神々の時代であっても、紅葉で色鮮やかに染まった竜田川 (奈良の紅葉の名所) ほど不思議で美しいことは起きなかったに違いない、という訳を見て、素敵なお句だなと思いました。
- 「風そよぐ ならの小川の 夕暮れは みそぎぞ夏の しるしなりける」 (従二位家隆)
 - ・ 心地よい風と檜の葉が揺れる様子を感じながら、1月から6月の水無月祓の行事を眺めている爽やかな情景が浮かんできます。
- 「瀬を早み 岩にせかるる 滝川の われても末に あはむとぞ思ふ」 (崇徳院)
 - ・ 厳しい試練を乗り越えても必ず逢おう、という気持ちが込められており、激しく燃えさかる情熱と、強烈な決意のようなものが感じられるので好きな句の一つです。
- 「これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも あふ坂の関」 (蝉丸)
 - ・ 人生は出会いと別れの繰り返し、といはかなさを詠んだ一首です。これまで出会っては別かれてきた人たちのことを思い出します。ひとつひとつの出会いを大切に生きていきたいと思えます。
- 「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」 (阿部仲麻呂)
 - ・ 歴史の授業で取り扱った和歌です。帰国するという場面で故郷を思う気持ちで詠んだ。しかし、その後帰国できなかった。その時の気持ちはどのようなものを想像する。
- 「村雨の 露もまだひぬ 槇の葉に 霧立ちのぼる 秋の夕暮れ」 (寂蓮法師)
 - ・ この歌は、にわか雨が降った秋の夕暮れの幻想的な景色を詠んだ一首です。「村雨 (むらさめ) 」や「露 (つゆ) 」 「霧 (きり) 」と水の変化していく様子から、しっとりとした美しい日本独特の情緒を感じる歌です。
- 「春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣干すてふ 天の香具山」 (持統天皇)
 - ・ 真っ白な衣が天の香具山に干されていることから夏が来たことを感じている歌です。夏の爽やかさが伝わってきていいなと思いました。
- 「忍ぶれど 色に出でにけり わが恋は ものや思うと 人の問ふまで」 (平兼盛)
 - ・ 作者は、「恋しているのでは」と問われ、隠していた恋心が人にばれてしまったという驚きと、そこまで自分の恋心が募っていたことの衝撃を吐露している。「恋すてふ、、、」の歌と並んで恋の歌として有名です。

来週の予定

月	日	曜	学校行事等	1	2	3	4	給	5	6
1	13	月	成人の日	/	/	/	/	/	/	/
	14	火	⑥道徳	①	②	③	④	○	⑤	道
	15	水	再登校 16:00	①	②	③	④	○	⑤	/
	16	木		①	②	③	④	○	⑤	⑥
	17	金	⑥ビブリア発表練習	①	②	③	④	○	⑤	読